

第12回「原子力の安全管理と社会環境」ワークショップ

～エネルギー問題に関する「国民的議論」のあり方を探る～

主催：日本原子力学会社会・環境部会／ヒューマンマシンシステム研究部会／日本品質管理学会

【趣旨】

本ワークショップは、平成19年3月8日に第1回ワークショップを開催して以来、原子力の安全管理と社会環境に関して、ヒューマンファクター、品質マネジメント、社会技術という3つの学問分野の視点から、その現状と課題、今後の方向性などを議論してきた。その中では、地域住民・国民とのコミュニケーションのあり方などについても取り上げている。しかしながら、昨年の東日本大震災に伴う福島第一原発の災害により、原子力施設を取り巻く状況は大きく変わり、今や、国のエネルギー政策・原子力政策を根本から見直すことが必要となっている。

こうした状況を踏まえ、今回は、原子力を含めた今後の日本のエネルギー問題について、地域住民、行政、事業者をはじめ社会全体としての「国民的議論」のあり方について、それぞれの立場から話題提供を受けて議論する。これにより、「エネルギー問題をどうするか」そのものではなく、その「国民的議論」をどのように展開したらよいか、今後のあり方を考えたい。

【開催日時・場所】

日時：10月13日（土） 13:00～17:00

場所：東京大学浅野キャンパス武田先端知ホール

参加費：無料

申込み：10月10日（水）までに ethics@nuclear.jp へ「お名前・ご所属」をお知らせください。

【内容・登壇者】（敬称略）

13:00 開会あいさつ 木村 浩（東京大学、日本原子力学会社会・環境部会）

13:05 話題提供

（1）事業者の立場から（25分）

森田浩司（電気事業連合会 広報部 部長）

：電気事業者として、どのような活動をしているか

（2）住民の立場から（25分）

横島英俊（守谷あんしんお散歩プロジェクト〈もりあん〉）

：住民の立場に立った議論、活動の内容等を紹介

（3）実践者の立場から（25分）

土屋智子（東京大学政策ビジョン研究センター）

：議論展開のためのコミュニケーション実践の場の在り方

（4）学術的立場から（25分）

神里達博（大阪大学 コミュニケーションデザインセンター 特任准教授）

：国民的議論には、何が重要か、どうしたらよいか

15:00 パネルディスカッション

コーディネータ： 木村 浩（東京大学、日本原子力学会社会・環境部会）

首藤由紀（社会安全研究所）

パネリスト： 上記4人の話題提供者

17:00 閉会あいさつ 諸葛宗男（東京大学、日本原子力学会社会・環境部会長）

【連絡先】

東京大学大学院工学系研究科原子力専攻 木村 浩

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 TEL：03-5841-2959 FAX：03-5841-8627